

# 建 設

1.	かごしま水族館	257
2.	公有水面埋立事業	258
3.	公園	259
4.	緑化事業	261
5.	動物公園	263
6.	都市計画概況	264
7.	港湾	265
8.	都市景観	267
9.	住居表示	268
10.	開発許可事務	269
11.	市街地再開発	269
12.	本市施行の土地区画整理事業	272
13.	清算	281
14.	連続立体交差事業	281
15.	建築確認事務	282
16.	住宅	283
17.	建築物の維持保全	285
18.	建築物の環境対策	286
19.	土木	286
20.	高速道路	293
21.	地籍調査	293

都市計画道路 高麗通線(二期) 開通



# 建設

## 1 かごしま水族館（愛称「いおワールド」）

「黒潮浪漫海道」をメインテーマに、黒潮のたどる南西諸島の海から鹿児島までの魚たちを、多彩な水槽で紹介することによって、水族に関する知識を広め、自然環境への意識の高揚を図っている。また、市民の健全な余暇の活用に供するとともに、本市の観光の振興にも資する施設である。

平成23年9月には、入館者累計1,000万人を突破した。

所在地 本港新町3番地1

開館 平成9年5月30日

開館時間 午前9時30分～午後6時（入館は午後5時まで）

休館日 12月の第1月曜日から連続する4日間

入館料 大人 1,500円（1,200円）

小人（小・中学生） 750円（600円）

幼児（4歳以上） 350円（280円）（ ）内は20人以上の団体料金

年間パスポート

大人 3,000円（2,700円）

小人（小・中学生） 1,500円（1,350円）

幼児（4歳以上） 700円（630円）（ ）内はファミリー購入料金

平川動物公園・かごしま水族館共通チケット

大人 1,600円

小人（小・中学生） 770円

構造 鉄筋コンクリート造（一部鉄骨造）地上5階一部地下2階建

敷地面積 14,043.96㎡

延床面積 13,162.83㎡

展示水族 約500種30,000点

施設概要 本館

- ・ 1 階 エントランスホール、ピラルクー水槽、マングローブの生き物たち、ワクワクはっけんひろば、タッチプール体験コーナー、アミューズメントショップ、管理事務室等
- ・ 2 階 黒潮大水槽、水中トンネル、南西諸島の海、アクアラボ、レストラン等
- ・ 3 階 いおっこひろば、海を渡ってきたオオウナギ、特別展示室等
- ・ 4 階 かごしまの海（サツマハオリムシ、錦江湾の魚、タカアシガニ水槽等）

・中5階 展望ホール（タイハイヨウアカボウモドキ骨格標本展示コーナー）

ラッコ・イルカ館

・地下2階 イルカプール（水中観察コーナー）

・地下1階 イルカプール及び観覧スタンド

・1階 ラッコ水槽，イルカプール観覧スタンド

屋外（無料ゾーン）

・イルカ水路

入館者状況（平成23年度）687,810人

内 訳 大人 394,221人 小人 95,759人

幼児 49,386人 無料 148,444人

## 2 公有水面埋立事業

### (1) 与次郎ヶ浜

#### ① 概要

この事業は、昭和41～47年度に中部地区宅地造成事業の関連事業として、鹿児島開発事業団に工事を委託し、埋立てに要する土砂を中部地区から大規模な水搬送工法によって施工したものである。

#### ② 事業費等

事業費総額 114億3千万円

埋立面積 1,089,096㎡（329,451坪）

工期 昭和41年8月～47年8月（附帯工事を昭和49年3月まで継続）

### (2) 祇園之洲

#### ① 概要

この事業は、開発事業団が施工した与次郎ヶ浜埋立工事（昭和41年8月～47年8月）で採用した水搬送工法によって、埋立地の北方約2.5kmに位置する丘陵地（せばる団地）の土砂を稲荷川の水を利用してパイプ搬送により埋立てたものである。

#### ② 事業費等

目的……上町地区の振興を図るため

埋立面積……84,234㎡（約25,000坪）

土量……70万㎡

護岸延長……1,432m

着工……昭和48年3月

竣工……昭和52年3月

建設業者……13業者

分譲……昭和52年度開始

事業費……22億4千万円

### 3 公 園

#### (1) 公園緑地整備と現況

本市の都市公園は616カ所が開設され、総面積が449.58haで、市民一人当たりに換算すると7.42㎡となっている。

公園緑地は、市民に潤いと安らぎを与えるとともに、スポーツ・レクリエーション活動、健康づくりや地域コミュニティ等の場、さらには災害避難地としての機能を担うなど、重要な役割を果たすことから、全市的に調和のとれた配置と拡充に努めている。また、多様化する公園緑地へのニーズに対応するため、既設公園の再整備を行うとともに、市民との協働による公園づくりに取り組むこととし、①緑の保全、緑の育成・創出と機能の充実、②花と緑のまちづくり、③身近な公園・広場の創出・拡充、④広く市民に親しまれる公園の充実を主要施策として掲げ、整備を行っている。

主なものとして、これまでにかごしま健康の森公園や鹿児島ふれあいスポーツランドをはじめ、郊外にあってハイキング等を楽しめる自然志向型公園の錦江湾公園、豊かな緑を生かして「ふるさと考古歴史館」を内包した慈眼寺公園、市街地中心部では「緑と水と光」をテーマに明るく開放的なイメージを基調とした中央公園、「市民や観光客のふれあい交流の場」としての共研公園、都市近郊の豊かな緑や自然的・歴史的特性を生かした多賀山公園、さらに、小野・伊敷地区には硬式野球のできる広場を備えた小野公園、吉野地区には寺山ふれあい公園、桜島地区には古里公園を整備している。

#### (2) かごしま健康の森公園

市政100周年の記念事業の一つであり、市民の健康づくりの中核として犬迫町の丘陵地に設置され、スポーツやレクリエーション、遠足・園外保育等、また、地域の交流の場として、開設以来多くの市民の方々に広く利用されている。

開設年月日 平成4年4月1日

面 積 336,600㎡

利用時間 午前8時30分～午後9時

(ただし、プールについては、午前8時30分～午後8時まで)

休業日 12月30日～1月2日

(ただし、プールは火曜日(休日のときは翌平日)も休み)

駐車場 約1,200台

主要施設 記念広場(噴水・カナル・カスケード)

多目的広場・ファミリー広場(芝生広場、バターゴルフコース)

わんぱく広場

桜広場(展望台)

運動広場(サッカー、ラグビー)

テニスコート(砂入人工芝7面)

プール(温水プール, 温泉プール, ウォータースライダー)  
 体育館(バドミントン, 卓球, バレーボール, バasketボール)  
 相撲場(1面)  
 自然観察園, こもれびの散歩道, 四季の花園  
 ジョギングコース

(3) 鹿兒島ふれあいスポーツランド

スポーツやレクリエーション活動を通じて, 気軽に心身のリフレッシュや健康づくり, 利用者同士での交流活動などを楽しめる総合公園として, 多くの市民の方々に広く利用されている。

開設年月日 平成16年10月16日(ふれあいスポーツゾーン)

位置 中山町中山インターチェンジ東側の丘陵地

開設面積 399,600㎡

利用時間 午前8時30分～午後9時

(ただし, プールについては, 午前8時30分～午後8時)

休業日 12月30日～1月2日

(ただし, プール, トレーニング室は水曜日(休日のときは翌平日)も休み)

駐車場 約900台

主要施設

○ ふれあいスポーツゾーン

屋内プール(25mプール, ウォータースライダー, 歩行浴, 温泉保養コーナーなど), 屋内運動場(ゲートボール, テニス, フットサルなどのできる屋内運動場), トレーニング室(各種トレーニングマシーンを備えたトレーニングスタジオ), EXスタジオ(ダンスやエアロビクスなどができるフローリングスタジオ), 多目的運動広場(芝生広場, クレイ広場), ふれあい広場・花の広場(交流や休息ができる芝生広場, 四季の花木などを楽しめる広場), 林間スポーツ広場(グラウンド・ゴルフが楽しめる広場), ピクニックの丘(ピクニックや散策, 休息が楽しめる広場), 渓流の散歩道・親水広場(自然の魅力を楽しむ散歩道, 水に触れ合える池のある広場)

○ 専用球技ゾーン

多目的球技場(県立スタジアム)基本計画:7年度策定

県立球技場(仮称)基本構想:16年度発表

(現在の状況)

県は, 平成25年度に供用開始を目途に, 現在, 専用球技場の整備を行っている。

(4) 都市公園の現況

(平成24. 4. 1 現在)

公園種別	開設公園						
	都市計画公園		都市計画外公園		計		
	箇所	面積 (ha)	箇所	面積 (ha)	箇所	面積 (ha)	
街区公園	119	29.08	429	61.81	548	90.89	
近隣公園	14	24.65	21	35.05	35	59.70	
地区公園	4	19.61	3	14.13	7	33.74	
総合公園	4	119.72			4	119.72	
運動公園	1	43.15			1	43.15	
特殊公園	風致公園	2	37.10	1	1.00	3	38.10
	動物公園	1	29.34			1	29.34
	墓園	2	10.90			2	10.90
	歴史公園			2	1.84	2	1.84
緑道	1	14.80	2	0.90	3	15.70	
都市緑地	1	0.80	7	4.26	8	5.06	
緩衝緑地			2	1.44	2	1.44	
合計	149	329.15	467	120.43	616	449.58	
1人当たり面積	4,495,800㎡ ÷ 605,609人 = 7.42㎡						

4 緑化事業

(1) 都市緑化

緑につつまれた潤いの空間を創出し、四季の表情豊かな花と緑の街づくりを推進する。

① 公園の緑化

緑の拠点として緑化を進めるとともに、多様な公園の整備にあわせ、それぞれの特徴を生かした緑の質の向上を図る。

② 街路の緑化

幹線道路等を中心に、地域の特徴を生かした個性ある植栽を行うとともに、樹木の自然な生長を生かしながら、緑豊かで花に満ちたネットワークの形成とその充実を図る。

街路樹の状況

(平成24. 4. 1 現在)

管理者別	市道
本数	830,937

街路樹の樹種別本数 (高木)

(平成24. 4. 1 現在)

樹種	クスノキ	クロガネモチ	サクラ	ヤマモモ	タイワンフ	その他	計
本数	5,924	2,980	1,864	842	712	9,073	21,395
割合 (%)	27.7	13.9	8.7	4.0	3.3	42.4	100

(低木)

樹種	ヒラドツツジ	カンツバキ	サツキ	ヒノデキリシマ	シャリンバイ	その他	計
本数	380,104	101,756	78,883	57,725	47,979	143,095	809,542
割合 (%)	47.0	12.6	9.7	7.1	5.9	17.7	100

### ③ 市電軌道敷の緑化

ヒートアイランド現象の緩和や都市景観の向上を図るため、市電の軌道敷内に芝生で緑化を行い、潤いと安らぎのある都市空間を創出する。

平成23年度整備完了区間：鹿児島駅から中洲電停交差点間、高見馬場交差点から浜橋電停間、工学部前交差点から郡元電停交差点間

## (2) 花と緑のまちづくり

### ① 市設花壇等の維持管理

四季を通じて花に囲まれた街づくりを推進するため、市設花壇の維持管理を行う。

### ② 花いっぱい運動の推進

生活環境の整備、美化のため、町内会、通り会、その他の市民団体が行う活動に対し、花いっぱい運動の一環として、草花苗の配布や技術指導を行う。

### ③ 公共施設の屋上・壁面緑化

整備実績 平成19年度 谷山支所（屋上）  
平成20年度 市立図書館（屋上）、みなと大通り別館（壁面）  
平成21年度 西部保健センター（屋上）  
平成22年度 かごしま近代文学館・かごしまメルヘン館（屋上）  
平成23年度 谷山支所（壁面）

## (3) 緑化の普及啓発

### ① 花のまちづくりコンクールの実施（隔年開催）

四季の草花による“緑花”を奨励し、また家庭、事業所等の“緑花”の普及促進を図るため花壇のコンクールを実施する。

### ② 街路樹愛護対策

「自分たちの緑は自分たちの手で」をモットーに自主的な歩道緑地の管理の普及を図るとともに、住みよい快適環境づくりをめざす。

歩道緑地管理団体（平成24.4.1現在221団体、奨励金1管理団体12,000円）

### ③ グリーンバンク

撤去等を予定されている樹木等の寄付を受け、これを公園等に植栽し生長させ、市民生活環境の向上と緑化の推進を図る。

### ④ 花と緑のふれあい

ア 花と緑の相談員の設置                      イ ふれあい園芸教室の開催（年2回）  
ウ 錦江湾公園はなまつりの開催

### ⑤ 民間施設の屋上・壁面緑化の促進

鹿児島市民間建築物屋上・壁面緑化助成事業（市単独事業 平成18年度から実施）

目的 鹿児島市におけるヒートアイランド現象を緩和するとともに、潤いのある空間を創出し、緑の街並みづくりを促進する。

内容 市街化区域内の建築物所有者で屋上や壁面を緑化する方に助成する。

実績 平成23年度 屋上緑化 11件 壁面緑化 3件

## 5 動物公園

鴨池動物園開園 大正5年9月23日  
 市 移 管 昭和3年7月1日  
 鴨池動物園閉園 昭和47年2月29日  
 平川動物公園開園 昭和47年10月14日

### (1) 沿革・運営

大正5年民間企業が鴨池に遊園地を設置、その後昭和3年に市が買収し、交通事業の誘致施設として、敷地拡張、動物購入や娯楽施設の充実に努めた。

その後、動物園経営が交通企業の負担となってきたので、昭和36年度から運動場とともに市教育委員会に移管し、子供の教育に役立つ魅力ある動物園を目標に、施設の整備充実に図った。

また、昭和43年に所管を都市計画部に移し、位置、面積等について都市計画の一環として考慮していくことになった。昭和44年度に300万円の動物園移転調査費を計上して調査を行い、昭和45年度に平川町の五位野地区に位置決定し、昭和46年4月5日着工、昭和47年10月14日平川動物公園(平川町5669番地1)として開園した。

### (2) 平川動物公園

動物公園の面積は、約314,000㎡で、前面に桜島と錦江湾を望み、山林や谷、川のある起伏に富んだ敷地で、自然に囲まれた公園としてそれらをできるだけ原形のまま残して建設されていることから、現在でも園内を五位野川のせせらぎが流れるなど、美しい自然が色濃く残っている。

昭和59年にオーストラリアのクイーンズランド州から誘致したコアラも平成23年度には7世となる56頭目の赤ちゃんが生まれ、現在、9頭を飼育している。(平成24.7.6現在)

また、平成21年度から、新しい展示方法の導入や利用者の利便性の向上を図り、「南国鹿児島らしい」「人にやさしい」「動物にやさしい」魅力ある動物公園に再生するため、平成27年度を目途にリニューアルを進めており、平成23年11月に「インドの森ゾーン」、平成24年4月に「野生のイヌ・ネコゾーン(ライオン・クロヒョウほか)」などが完成した。

平成23年9月には、入園者数累計2,200万人を超えた。

#### ① 施設

開園時間 午前9時～午後5時

休 園 日 12月29日～1月1日

飼育動物 133種 971点(平成24.3.31現在)

(哺乳類80種551点, 鳥類42種393点, は虫類11種27点)

動物舎 52棟 10,560.24㎡

#### ② 平成23年度入園者状況

大人 343,233人, 小人 96,821人, 無料 190,481人, 計 630,535人



③ 入園料

一般（高校生以上） 500円（400円）  
 小学生・中学生 100円（80円）（ ）内は20名以上の団体料金

④ 年間パスポート

一般（高校生以上） 1,000円  
 小学生・中学生 200円

⑤ 平川動物公園・かごしま水族館共通チケット

大人 1,600円  
 小人（小学生・中学生） 770円

6 都市計画概況

都市計画の基本は、都市の健全な発展と秩序ある整備を図り、公共の福祉に寄与することである。

本市は平成16年11月の合併に伴い、5つの都市計画区域が存在している。

土地利用の適切な誘導と均衡ある発展を図るために、「市街化区域」及び「市街化調整区域」の区域区分並びに用途地域の指定をはじめ、道路・公園・緑地・下水道等の都市施設を都市計画に定め、整備を逐次進めている。

(1) 土地利用計画（平成24.4.1現在）

① 都市計画区域

	鹿児島	吉田	喜入	松元	郡山	合計
都市計画区域	29,003ha	650ha	2,905ha	3,171ha	2,740ha	38,469ha

② 市街化区域及び市街化調整区域

	鹿児島	吉田	喜入	松元	郡山	合計	決定告示	備考
市街化区域	8,442ha (21.9%)	-	-	-	-	8,442ha (21.9%)	平成22.12.28 (変更決定)	(当初決定) (昭46.2.12)
市街化調整区域	20,561ha (53.4%)	-	-	-	-	20,561ha (53.4%)		

③ 用途地域

用途地域	鹿児島 面積(ha)	吉田 面積(ha)	喜入 面積(ha)	松元 面積(ha)	郡山 面積(ha)	合計 面積(ha)	割合 (%)	備考
第一種低層住居専用地域	約3,997	約44	-	約29	約10	約4,080	46.0	・鹿児島 (平成22.12.28 当初決定) 昭48.6.18)
第二種低層住居専用地域	約141	-	-	-	-	約141	1.6	
第一種中高層住居専用地域	約211	約1.5	-	約139	約59	約410.5	4.6	・吉田 平成21.8.11
第二種中高層住居専用地域	約831	約9.5	-	約8.7	-	約849.2	9.6	
第一種住居地域	約838	-	-	約54	約18	約910	10.3	・松元 (平成16.4.1 当初決定) 平成9.1.31)
第二種住居地域	約101	-	-	-	-	約101	1.1	
準住居地域	約193	-	-	約15	約7.6	約215.6	2.4	・郡山 (平成16.9.1 当初決定) 平成4.9.1)
近隣商業地域	約291	-	-	約11	約3.2	約305.2	3.4	
商業地域	約503	-	-	-	-	約503	5.7	・郡山 (平成16.9.1 当初決定) 平成4.9.1)
準工業地域	約517	-	-	約14	約5.3	約536.3	6.0	
工業地域	約237	-	-	-	-	約237	2.7	
工業専用地域	約582	-	-	-	-	約582	6.6	
合計	約8,442	約55	-	約270	約103	約8,870	100.0	

備考) 防火地域123ha, 準防火地域761ha, 風致地区1,013ha, 臨港地区255.8ha, 特別用途地区536.3ha  
 駐車場整備地区580ha, 流通業務地区61ha, 高度地区25ha, 高度利用地区2.5ha, 地区計画(20地区, 約436.05ha)

## (2) 都市計画道路整備状況（平成24.3.31現在）

区 分		道路種別		国道	県 道			市 道	合 計	進捗率 (%)
					主要地方道	一般地方道	小 計			
鹿児島都市計画区域	都市計画区域	計画決定	延長(km)	35.640	26.950	23.210	50.160	147.950	233.750	
			面積(ha)	85.801	64.009	56.274	120.283	251.280	457.364	
		改良済	延長(km)	27.220	22.750	18.880	41.630	129.815	198.665	85%
			面積(ha)	65.024	55.282	49.346	104.628	223.782	393.434	86%
	市街化区域	計画決定	延長(km)	30.740	25.340	19.395	44.735	140.585	216.060	
			面積(ha)	70.999	60.164	49.936	110.100	240.697	421.796	
		改良済	延長(km)	24.086	22.190	15.960	38.150	128.325	190.561	88%
			面積(ha)	56.583	54.062	44.440	98.502	221.436	376.521	89%
郡山都市計画区域	計画決定	延長(km)	1.520	3.360	0.000	3.360	1.490	6.370		
		面積(ha)	3.040	5.152	0.000	5.152	1.937	10.129		
	改良済	延長(km)	0.670	1.616	0.000	1.616	0.800	3.086	48%	
		面積(ha)	1.340	2.696	0.000	2.696	1.040	5.076	50%	

## 7 港 湾

### (1) 鹿児島港の現状

港湾管理者 鹿児島県

明治40年10月 「重要港湾」（旧法）に指定

大正8年7月11日 「開港」勅令333号。長崎税関鹿児島支署設置

大正11年4月8日 「甲種港湾」に指定

昭和26年1月19日 「重要港湾」（現法）に指定 政令第4号

鹿児島港は鹿児島市の海の玄関口であり、穀物及び飼料を中心とする貿易や県内外の物流の拠点である。

港は南北20kmにわたり、桜島航路、種子屋久航路、三島十島航路及び沖縄航路の発着拠点としての「本港区」、奄美・沖縄方面への貨客船の基地である「新港区」、大隅半島との海上交通の拠点としての「鳴池港区」、LPG・金属くず等を取扱う「中央港区」、臨海工業地帯及びその背後地域からの発生貨物や輸入穀物等を取り扱う基地としての「谷山一区」・「谷山二区」、ヨット競技等のレクリエーション港としての「浜平川港区」からなっている。

鹿児島港は、これまで、重要港湾として国及び港湾管理者である県により港湾機能の高度化、離島航路の集約化、背後地域の振興を図るための都市再開発用地の確保等を主な目的として整備が行われてきた。

しかしながら、国際化・都市化・情報化の進展等、社会経済情勢の変化に伴い、

ウォーターフロントの魅力を生かした街づくり、海洋性レクリエーション基地の整備、人・物・情報の行き交う交流拠点の形成などが、新たな課題となってきた。そこで、これらの課題に対応するため、平成5年6月に目標年次を概ね平成17年として港湾計画が改訂された。

現在、国際交流の拠点等として平成11年12月に着工された中央港区の「マリンポートかごしま」をはじめ、鹿児島港の湾岸を南北に走る臨港道路等の整備が進められている。

「マリンポートかごしま」については、大型観光船が接岸できる岸壁と緑地空間の整備が進められ、このうち1期1工区については、平成19年9月に供用開始された。また、1期2工区については、平成24年3月に埋立てに関する工事が竣功した。なお、海洋性レクリエーション需要の増大に対応したマリーナ等の整備が計画されている。

## (2) ウォーターフロントの開発

本港区のウォーターフロント開発については、昭和63年度から平成元年度にかけて「鹿児島港ポータルネッサンス21計画調査」を、また、平成2年度には、本港区の景観の高質化を図るための方策を検討するため「本港区景観形成調査」を実施した。これらの調査結果等を踏まえて、県などにより順次施設整備が進められており、北ふ頭旅客ターミナル、貨物上屋、ボードウォークなどについては平成5年12月に、桜島フェリーターミナルは平成10年4月に、南ふ頭については平成14年9月に、高速船ターミナルについては平成19年4月にそれぞれ供用が開始された。

水族館については、市が事業主体となって、平成3年度に基本構想を策定し、平成4年度に基本設計、平成5年度に実施設計、平成6年度から建設に着手、平成9年5月にオープンした。

一方、商業施設等については、平成3年度に県・市・商工会議所で構成する「鹿児島港ポータルネッサンス21事業推進協議会」を設立して、各種調査等を行い、平成6年度末に、その後の社会経済情勢の変化に柔軟に対応した開発のマスタープランとして「鹿児島港本港区ウォーターフロント開発基本計画」を策定した。この基本計画では、「躍動と南のロマンあふれるみなど鹿児島創造」を開発コンセプトとして、鹿児島の自然や歴史を生かしながら、生活者や観光客が憩い、楽しめる空間づくりを目指している。この基本計画のもと、本港区A街区において事業用定期借地方式による暫定開発により商業施設を導入することとし、平成17年4月に「ドルフィンポート」がオープンした。また、平成12年3月にはNHKが進出を決定し、平成18年10月に業務を開始した。

## (3) 鹿児島港船舶旅客状況

(資料：港湾調査 年報 単位：人)

	18年	19年	20年	21年	22年
船舶乗降人員	6,776,638	6,812,952	6,764,397	6,487,014	6,282,079

## (4) 鹿児島港輸移出入状況

(資料：港湾調査 年報 単位：トン)

	18年		19年		20年		21年		22年		
	数量	%	数量	%	数量	%	数量	%	数量	%	
内国貿易	移出	20,384,719	47.4	19,661,891	47.1	19,478,991	47.5	19,156,336	48.0	18,273,515	47.1
	移入	22,639,501	52.6	22,063,401	52.9	21,546,019	52.5	20,783,410	52.0	20,564,919	52.9
	計	43,024,220	100.0	41,725,292	100.0	41,025,010	100.0	39,939,746	100.0	38,838,434	100.0
外国貿易	輸出	10,320	0.7	1,718	0.1	4,221	0.3	21,958	1.5	7,798	0.6
	輸入	1,544,401	99.3	1,528,533	99.9	1,429,212	99.7	1,486,058	98.5	1,373,825	99.4
	計	1,554,721	100.0	1,530,251	100.0	1,433,433	100.0	1,508,016	100.0	1,381,623	100.0

## (5) 鹿児島港入港船舶トン数階級別表（平成22年実績）（資料：港湾調査 年報）

区分	総トン数	30,000以上	10,000 } 30,000	6,000 } 10,000	3,000 } 6,000	1,000 } 3,000	500 } 1,000	5 } 500	計	前年対比(%)	平成21年実績
		外航	隻数	68	43	24	18	66	12	2	233
	トン数	3,446,380	852,004	219,231	75,614	104,540	10,029	697	4,708,495	138.5	3,399,877
内航	隻数	1	80	246	1,233	25,433	22,270	9,274	58,537	96.5	60,691
	トン数	50,142	974,616	1,753,221	5,066,319	35,047,072	15,907,306	1,528,324	60,327,000	96.3	62,631,032
計	隻数	69	123	270	1,251	25,499	22,282	9,276	58,770	96.5	60,891
	トン数	3,496,522	1,826,620	1,972,452	5,141,933	35,151,612	15,917,335	1,529,021	65,035,495	98.5	66,030,909

## 8 都市景観

## (1) 概要

良好な景観は、国民共通の財産であり、将来にわたり国民がその恵沢を享受できるように守り、創り、育てていかなければならない。

本市は、波静かな錦江湾や雄大な桜島などの自然が広がる、世界に誇れる美しい景観に恵まれている。また、それぞれの地域には、鹿児島島の風土・文化に生まれ、市民が愛着と誇りを持っている身近な景観もある。

このような良好な景観が地域社会の共通の財産であることを再認識し、市民、事業者、行政が一体となって景観に配慮したまちづくりを進めていくために、景観法に基づく景観計画及び景観条例による施策を実施している。

## (2) 景観形成の目標

- ・個性ある骨格景観の形成により、「鹿児島らしさ」を創りあげる。
- ・地域のまちづくり計画と連携し、地域の魅力を引き出す景観形成を推進する。
- ・地域の景観資源を活用し、景観の魅力の向上を図る。
- ・市民、事業者、行政が協働して、みんなが誇れる景観形成を進める。

(3) 景観計画の概要

告示 平成19年12月25日  
 施行 平成20年6月1日  
 内容 城山展望台から錦江湾・桜島への眺望確保，建築物等の色彩基準の導入，景観形成重点地区指定の仕組みづくり

(4) 景観条例の概要

公布 平成19年12月25日  
 施行 平成20年6月1日  
 内容 視点場の導入  
 景観づくり団体の要件  
 景観アドバイザーの導入  
 景観審議会の設置

(5) 実績

景観に関する届出等件数

区分 \ 年度	20	21	22	23
景観法16条1項に基づく届出	191	190	173	174
景観法16条2項に基づく届出	10	23	14	11
景観法16条5項に基づく通知	109	98	98	92
合計	310	311	285	277

9 住居表示

本市では，昭和37年に制定された「住居表示に関する法律」に基づき，昭和38年から住居表示を実施している。

計画面積は，当初の計画34.4km<sup>2</sup>を昭和48年3月に38.885km<sup>2</sup>，昭和60年11月に69.301km<sup>2</sup>，平成3年2月に75.076km<sup>2</sup>，平成5年11月に84.004km<sup>2</sup>，平成17年10月に86.560km<sup>2</sup>と拡大しており，平成23年度までの進捗率は84.5%である。

平成24年度は，宇宿中間・広木地区（第3期）及び上荒田西部地区の実施を予定しており，今後も年次計画に基づき実施する。

年 度	面積 (km <sup>2</sup> )	人口 (人)	世帯数	進捗率 (面積%)
23 まで	73.164	477,150	197,550	84.5
24 計画	0.375	1,650	660	85.0
25 以降	13.021			

## 10 開発許可事務

### (1) 概 要

本市域内で主として建築物の建築等の用に供する目的で行う土地の区画形質の変更，すなわち開発行為を行う場合や，市街化調整区域内で建築物を建築する場合の都市計画法に基づく許可を行っている（開発許可については，平成8年4月1日の中核市以降）。また，平成14年3月18日からは，市街化調整区域内において優良田園住宅建設促進制度を導入し，運用を開始したほか，平成16年11月1日には，「鹿児島市市街化調整区域における住宅建築等に関する条例」を施行し，許可を行っている。

平成16年7月22日には，宅地造成工事規制区域の見直しを行い，宅地造成等規制法に基づく許可の範囲を拡大した。

また，平成19年10月1日には，「鹿児島市宅地開発に関する条例」を施行し，宅地開発許可制度の適正な運用と透明性の確保を図るほか，同日からは，旧5町域に宅地造成工事規制区域を拡大し，同区域内での宅地造成等規制法に基づく許可を行っている。

平成18年5月31日の都市計画法の改正（平成19年11月30日施行）により，市街化調整区域内での大規模開発ができなくなり，これまで開発許可や建築許可が不要であった社会福祉施設，医療施設，学校，庁舎等の公共公益施設も許可が必要となった。

### (2) 実 績

開発許可等件数 ※変更許可は含まない

区 分	年 度	19	20	21	22	23
都市計画法第29条開発許可		46	56	56	53	43
都市計画法第43条建築許可		255	207	177	202	214
宅地造成等規制法第8条許可		20	20	19	19	26

## 11 市街地再開発

本市の市街地再開発は，昭和37年に柿本寺，御着屋，天神馬場，納屋の4地区が，更に昭和43年に中町地区が「防災建築街区造成法」（昭和36年6月施行）に基づく防災建築街区として指定され，中町，天神馬場を除く各街区に防災建築物（延べ建築面積14,860㎡，総事業費623,983千円）が建築されたことに始まる。

その後，同法に代わり昭和44年6月「都市再開発法」が施行され，以後この法に基づいて事業が行われることになった。

このような中，昭和46年度に納屋中町地区において現況調査を実施，翌昭和47年度には市街地再開発事業の準備組合が結成されたが，経済状況等の変化を理由に事業化中止のやむなきに至った。

その後，都心一点集中型の都市構造を改善し，市全体として調和のとれたまちづくりを進めるため，市街地再開発事業による都市機能の適正な配置と高次化を図り，ゆとりと潤いのある都市空間の創出，個性や文化性を備えた安全性の高いまちの形成を

目指している。

（鹿児島中央駅地区）

鹿児島中央駅（旧西鹿児島駅）地区の活性化を図るとともに、新たなにぎわいとゆとりのある都市空間を創造するため、昭和60年3月「西鹿児島駅地区総合整備構想」を、昭和58年度には西鹿児島駅東口地区（12.3ha）において市街地再開発事業基本計画を策定した。当地区内の中央町10番街区においては、昭和61年1月に準備組合が設立され、昭和63年9月には高度利用地区、同年10月には第一種市街地再開発事業の都市計画決定がなされ、平成元年6月には、市街地再開発組合の設立の認可を受けた。その後、平成9年11月に施設建築物工事に着手、平成11年5月に工事が完了し、同年6月に店舗等の施設がオープンした。（総事業費約11,777百万円）

また、10番街区に隣接する中央町6番街区の一部においては、駐車場を主体とした市街地再開発事業の気運が高まり、昭和63年12月関係権利者による再開発協議会が設立され、平成9年12月に高度利用地区及び第一種市街地再開発事業の都市計画決定がなされ、平成10年3月には市街地再開発事業の個人施行の認可を受けた。同年7月に施設建築物工事に着手、平成11年5月に工事が完了し、同年6月に供用を開始した。（総事業費約3,023百万円）

さらに、一番街を中心とする南部地区においても、平成2年4月、準備組合が設立され、平成4、5年度に市による推進計画調査を行ったが、経済状況等の大きな変化から事業の進捗が図られず、平成7年7月、準備組合では事業計画を抜本的に見直すことを決議した。そして、平成8年10月には「西駅南部地区リニューアル協議会」を設立し、今後のまちづくりの検討を行っている。なかでも中央町22番街区・23番街区においては、平成15、16年度に市による推進計画調査を行い、平成17年4月にはそれぞれの街区で準備組合が設立され、平成18年1月には高度利用地区及び第一種市街地再開発事業の都市計画決定がなされた。その後、23番街区では同年10月に市街地再開発組合が設立され、平成19年9月に権利変換計画の認可を受け、平成20年7月に施設建築物工事に着手、平成22年8月に工事が完了し、同年9月にオープンした。また、22番街区では、平成19年6月に施行区域を街区全体とするための都市計画変更が行われ、平成20年1月に市街地再開発組合が設立され、平成20年12月に権利変更計画の認可を受けた。平成21年4月に施設建築物工事に着手、平成22年2月に工事が完了し、同年3月にオープンした。（総事業費約4,830百万円）

（天文館地区）

厚生市場を中心として、小売市場近代化事業の取組みがなされていた西千石町13番街区では、平成8年度に市による推進計画調査を行い、平成9年12月には準備組合が設立された。その後、平成12年3月に高度利用地区及び第一種市街地再開発事業の都市計画決定がなされ、平成13年1月には市街地再開発組合の設立の認可を受け、平成14年4月に施設建築物工事に着手、平成15年8月に工事が完了し、同年9月に店舗、

住宅等の施設がオープンした。（総事業費約4,338百万円）

（鹿児島港本港区背後地区，鹿児島駅周辺地区）

鹿児島港本港区背後地区では，本港区再開発と一体となって，海や港を生かしたまちづくりを進めるため，昭和61年5月「鹿児島本港背後地区総合整備構想」を策定した。

昭和62年には，当地区活性化のさきがけの事業として農協連跡地の再開発を民間活力を導入して実施するため提案協議を行い，昭和63年12月鹿児島アーバンポート21の建設工事に着手した。平成2年7月に住宅館が完成し，入居開始，同年10月には市場館が，平成5年4月にはグルメ・スポーツ・ホテル館がそれぞれオープンした。

さらに，再開発の気運が高まった小川町21番街区においては，平成元年8月に準備組合が設立された。平成4年4月に高度利用地区及び第一種市街地再開発事業の都市計画決定がなされ，同年10月には市街地再開発組合の設立の認可を受けた。その後，平成6年8月に施設建築物工事に着手，平成8年1月に工事が完了し，同年2月に店舗，住宅等の施設がオープンした。（総事業費約3,726百万円）

鹿児島駅周辺地区では，陸の玄関としての旅客駅を中心機能が鹿児島中央駅に移り，また市街地も南へ進展するなど，地域活力に低下が見受けられる。そこで，駅周辺に広がる旧国鉄用地を活用するなかで，ゆとりと潤いのある都市環境を整備するとともに，隣接する鹿児島港本港区とも関連付けた交通結節機能を充実し，本市の新たな都市拠点の形成を図ることとしている。

平成15年度には，地区のまちづくりに活用するため，大規模空地となっていた国鉄清算事業本部用地（約3ha）を取得し，その後，基盤整備の事業化に向けて具体的な調査検討を進め，基盤整備方針案を作成した。現在までに，駅周辺基盤整備について，関係機関との協議を進めるとともに，旧国鉄清算事業本部用地を先行して活用することについて具体的に検討し，導入機能やゾーニングなど土地利用の一定の方向性を示した「鹿児島駅周辺土地利用の基本的な考え方」を取りまとめた。平成24年度は，駅周辺基盤整備について関係機関等との協議により明らかになった課題等について検討を行い，事業実現に向けた合意形成等に取り組むほか，導入機能の具体化や敷地内の道路計画等についての協議，検討を行い，土地利用のより具体的で，実現性を持った方針となる「鹿児島駅周辺土地利用基本計画」を策定することとしている。

また，鹿児島駅周辺が面的広がりのある都市拠点となるには，周辺に隣接する磯・多賀山，上町，本港などが有する豊富な歴史・文化等の資源と都市機能が融合し，総合的な魅力を発揮していくことが求められることから，平成19年度には地域資源の有効活用と地域活性化をめざし，地域住民等によるワークショップを立ち上げ，平成21年度には住民と行政等との共通のまちづくり指針となる「まちづくりガイドライン」を策定した。平成22年度からは，ガイドラインを基にした地域住民主体のまちづくり活動への支援を行っている。（平成24年度予算13,198千円）



## 12 本市施行の土地区画整理事業（土地区画整理法第3条第4項による事業）

### (1) 換地処分完了地区

地区名	事業年度	施行区域の面積（㎡）	総事業費（千円）	減歩率（％）	換地処分
①脇田地区	昭和35～昭和54	505,065	353,120	19.99	昭和48.3.3
②紫原地区	昭和35～昭和60	1,456,562	856,465	24.36	昭和50.8.27
③谷山塩屋地区	昭和38～平成6	193,802	121,235	21.52	平成元.7.17
④笹貫地区	昭和40～平成9	281,408	262,431	25.23	平成元.8.28
⑤武・田上地区	昭和42～平成8	637,441	6,842,100	22.51	平成3.3.15
⑥桜川地区	昭和44～平成10	638,190	4,122,408	20.06	平成4.5.11
⑦小松原地区	昭和45～平成10	425,286	2,447,809	20.78	平成4.1.27
⑧桜川第二地区	昭和58～平成13	327,303	9,782,154	38.62	平成11.2.5
⑨谷山第一地区	昭和48～平成15	1,278,010	28,244,882	19.17	平成12.6.6
⑩原良第一地区	昭和63～平成19	368,724	22,394,527	20.05	平成15.2.21
				(18.46)	

（ ）内は減価補償金による公共用地取得後の減歩率

### (2) 事業施行中の地区

#### ① 宇宿中間地区土地区画整理事業

本地区は、道路、公園等の公共施設が未整備のまま宅地化が進み、市街地の発展と都市機能が阻害されている状況にある。

このため、都市計画道路宇宿広木線（16～20m）ほか5路線を含めた公共施設の整備改善を図るとともに、居住環境の良好な住宅地としての機能を十分発揮できるように土地利用を図るため、土地区画整理事業を行っている。

また、関連事業として都市基盤河川改修事業による脇田川改修事業用地815㎡（48,207千円）及び小宅地対策事業による5,243㎡（347,431千円）の用地先行取得を行った。

平成元年12月25日に区域について都市計画決定を行い、平成3年3月25日に事業計画を決定した。平成20年3月25日には第4回目の事業計画の変更を行った。

総事業費 46,066,000千円

内 訳	国庫補助金	8,781,546千円	総面積	818,277㎡
	市町村負担金	9,583,909千円	事業年度	
	保留地処分金	1,888,980千円	平成2年度～平成26年度	
	河川管理者橋梁負担金	1,321,800千円		
	公共施設管理者負担金	3,702,000千円		
	地方特定道路	10,067,000千円		
	市単独費	10,720,765千円		

土地の種目別対照表				(平成20年3月25日事業計画変更)			
種目				施行前		施行後	
				地積 (㎡)	割合 (%)	地積 (㎡)	割合 (%)
公共用地	国有地	道	路	57,305.21	7.01	74,627.81	9.12
		河	川	48,440.49	5.92	67,455.32	8.24
		水	路	13,601.24	1.66	3,078.55	0.38
		計		119,346.94	14.59	145,161.68	17.74
	地方公共団体所有地	道	路	33,157.56	4.05	158,495.41	19.37
	公	園	112.00	0.01	24,758.48	3.03	
	河	川	1,053.45	0.13	-	-	
	計		34,323.01	4.19	183,253.89	22.40	
	合計		153,669.95	18.78	328,415.57	40.14	
宅地	民有地	田		290,145.16	35.46	-	-
		畑		36,209.71	4.43	-	-
		宅	地	240,873.21	29.44	467,279.48	57.11
		山	林	15,811.58	1.93	-	-
		原	野	46,789.57	5.72	-	-
		雑	種	10,898.54	1.33	-	-
		公	衆	4,131.60	0.50	-	-
		衆	用	199.00	0.02	199.00	0.02
		道	道	641.00	0.08	641.00	0.08
		水	用	34.00	0.01	-	-
		墓	地	1,510.00	0.18	-	-
		用	池	647,243.37	79.10	468,119.48	57.21
	池	計					
	市	有	12,691.47	1.55	10,342.17	1.26	
	有	地	12,691.47	1.55	10,342.17	1.26	
	合計		659,934.84	80.65	478,461.65	58.47	
保	留	地	-	-	11,400.00	1.39	
測	量	増	4,672.43	0.57	-	-	
	減						
	合計		818,277.22	100.00	818,277.22	100.00	

## ② 吉野地区土地区画整理事業

本地区は、道路、公園等の公共施設が未整備のまま宅地化が進み、市街地の発展と都市機能が阻害されている状況にある。

このため、都市計画道路館之馬場通線（幅員25m）ほか8路線と区画道路など公共施設の整備改善を図るとともに、居住環境の良好な住宅地としての機能が発揮できるような土地利用を図るため、土地区画整理事業を行っている。

昭和62年2月4日に区域について都市計画決定を行い、平成4年10月28日に事業計画を決定した。平成20年3月25日には第4回目の事業計画の変更を行った。

総事業費 52,800,000千円

内 訳	{	国庫補助金	16,986,950千円	総面積	1,141,412㎡
		市町村負担金	15,944,050千円	事業年度	
		地方特定道路	9,822,000千円	平成4年度～平成27年度	
		市単独費	10,047,000千円		

土地の種目別対照表

（平成20年3月25日事業計画変更）

種 目		施 行 前		施 行 後		
		地 積 (㎡)	割合 (%)	地 積 (㎡)	割合 (%)	
公 共 用 地	国有地	道 路	1,108.61	0.10	1,108.61	0.10
	地方公共団体 所有地	道 路	107,103.49	9.38	275,378.51	24.12
		公 園	-	-	34,809.19	3.05
		水 路	1,485.30	0.13	-	-
		計	108,588.79	9.51	310,187.70	27.17
合 計		109,697.40	9.61	311,296.31	27.27	
宅 地	民 有 地	畑	482,010.09	42.23	-	-
		宅 地	437,979.37	38.37	823,765.27	72.17
		山 林	507.00	0.05	-	-
		原 野	6,617.51	0.58	-	-
		墓 地	655.74	0.06	648.38	0.06
		水 道 用 地	3,475.00	0.30	-	-
		公 衆 用 道 路	16,250.10	1.42	-	-
		雑 種 地	49,444.44	4.33	-	-
		計	996,939.25	87.34	824,413.65	72.23
	国有地	普 通 財 産	7,088.52	0.62	5,702.00	0.50
合 計		1,004,027.77	87.96	830,115.65	72.73	
測 量 増 減		27,686.79	2.43	-	-	
総 計		1,141,411.96	100.00	1,141,411.96	100.00	

③ 原良第二地区土地地区画整理事業

本地区は、第二種中高層住居専用地域、第一種住居地域及び準住居地域に指定されており、居住環境の良好な住宅地としての機能が十分発揮できるような土地利用を図り、また、都市計画道路原良本通線（幅員20m）ほか5路線の新設を含む道路、公園その他の公共施設の整備改善を行うため、土地地区画整理事業を行っている。

昭和37年2月28日に区域について都市計画決定を行い、平成7年7月25日に事業計画を決定した。平成24年5月7日には、第4回目の事業計画の変更を行った。

総事業費 21,036,000千円

内 訳	国庫補助金	3,352,700千円	総面積	203,780㎡
	市町村負担金	3,241,300千円	事業年度	
	公共施設管理者負担金	23,000千円	平成7年度～平成29年度	
	市単独費	5,894,000千円		
	地方特定道路	8,525,000千円		

土地の種目別対照表				(平成24年5月7日事業計画変更)			
種 目				施 行 前		施 行 後	
				地 積 (㎡)	割 合 (%)	地 積 (㎡)	割 合 (%)
公 共 用 地	国 有 地	道 路	-	-	-	-	
		水 路	-	-	-	-	
		河 川	-	-	1,169.05	0.57	
	計			-	-	1,169.05	0.57
	地 方 所 有 地 公 共 団 体	道 路	16,093.72	7.90	49,860.32	24.47	
		水 路	1,460.00	0.72	828.72	0.41	
公 園		-	-	6,158.16	3.02		
河 川		-	-	-	-		
計			17,553.72	8.62	56,847.20	27.90	
合 計			17,553.72	8.62	58,016.25	28.47	
宅 有 地	民 有 地	田	3,788.00	1.86	145,763.57	71.53	
		畑	112.00	0.05			
		宅 地	139,321.33	68.37			
		公 衆 用 道 路	1,124.41	0.55			
		雑 種 地	1,865.55	0.92			
	計			146,211.29			71.75
	公 有 地	国 有 地	-	-			
		県 有 地	3,585.02	1.76			
		市 有 地	36,282.81	17.80			
		計	39,867.83	19.56			
合 計			186,079.12	91.31	145,763.57	71.53	
保 留 地			-	-	-	-	
測 量 増 減			146.98	0.07	-	-	
総 計			203,779.82	100.00	203,779.82	100.00	
<p>④ 谷山第二地区土地区画整理事業</p> <p>本地区は、隣接する谷山第一地区土地区画整理事業の完了に伴う人口の増加や交通量の増大にもかかわらず都市基盤の整備が遅れ、生活環境の改善が望まれている地域であることから、居住環境の良好な住宅地を創出し、当該地区の秩序ある発展に寄与するため、土地区画整理事業を行っている。御所下和田名線や惣福森山線等の都市計画道路、木之下川を含む河川及び公園等の公共施設の整備を図ることとしている。</p> <p>平成8年3月29日に区域について都市計画決定を行い、平成9年8月19日に事業計画を決定した。平成20年8月11日には第3回目の事業計画の変更を行った。</p>							

総事業費 29,300,000千円

内 訳	国庫補助金	7,210,219千円	総面積	728,700㎡
	市町村負担金	7,038,201千円	事業年度	
	保留地処分金	1,807,338千円	平成9年度～平成26年度	
	公共施設管理者負担金	1,807,500千円		
	河川管理者橋梁負担金	122,100千円		
	地方特定道路	7,620,000千円		
	市単独費	3,694,642千円		

土地の種目別対照表

(平成20年8月11日事業計画変更)

種 目			施 行 前		施 行 後		
			地 積 (㎡)	割合 (%)	地 積 (㎡)	割合 (%)	
公 共 用 地	国 有 地	道 路	31,143.02	4.28	29,554.05	4.06	
		河 川	4,537.00	0.62	6,707.23	0.92	
		水 路	9,219.14	1.26	8,621.09	1.18	
		計	44,899.16	6.16	44,882.37	6.16	
	地 方 公 共 団 体 所 有 地	道 路	23,284.94	3.19	130,277.93	17.87	
		公 園	741.28	0.10	22,051.08	3.03	
		水 路	698.58	0.10	-	-	
		計	24,724.80	3.39	152,329.01	20.90	
	合 計			69,623.96	9.55	197,211.38	27.06
	宅 有 地	民 有 地	田	115,819.06	15.90	519,268.91	71.26
畑			4,926.12	0.68			
宅 地			241,169.37	33.08			
山 林			2,881.30	0.40			
原 野			14.00	0.01			
公 衆 用 道 路			4,464.76	0.61			
雑 種 地			3,808.47	0.52			
鉄 道 用 地			273.55	0.04			
計		373,356.63	51.24				
公 有 地		国 有 地	506.00	0.07			
	県 有 地	243,546.26	33.42				
	市 有 地	39,715.01	5.45				
	計	283,767.27	38.94				
合 計			657,123.90	90.18	519,268.91	71.26	
保 留 地			-	-	12,220.00	1.68	
測 量 増 減			1,952.43	0.27	-	-	
総 計			728,700.29	100.00	728,700.29	100.00	

⑤ 原良第三地区土地区画整理事業

本地区は、第二種中高層住居専用地域及び準住居地域に指定されており、都市計画道路原良山手線（幅員15m）ほか4路線を含む道路、公園その他の公共施設の整備改善を行い、市街地の住宅地として安全で良好な都市環境を創出するため、土地区画整理事業を行っている。

昭和37年2月28日に区域について都市計画決定を行い、平成12年3月24日に事業計画を決定した。平成20年3月25日には第2回目の事業計画の変更を行った。

総事業費 18,901,000千円

内 訳	国庫補助金	5,842,750千円	総面積	155,801㎡
	市町村負担金	5,759,250千円	事業年度	
	公共施設管理者負担金	1,015,000千円	平成11年度～平成28年度	
	市単独費	3,893,000千円		
	地方特定道路	2,391,000千円		

土地の種目別対照表

（平成20年3月25日事業計画変更）

種 目			施 行 前		施 行 後	
			地 積 (㎡)	割合 (%)	地 積 (㎡)	割合 (%)
公 共 用 地	国 有 地	道 路	—	—	—	—
		水 路	3,133.46	2.01	1,655.09	1.06
	計		3,133.46	2.01	1,655.09	1.06
	地 方 所 有 公 共 団 体	道 路	13,226.62	8.49	39,368.73	25.27
		公 園	—	—	4,800.05	3.08
河 川		—	—	—	—	
計		13,226.62	8.49	44,168.78	28.35	
合 計			16,360.08	10.50	45,823.87	29.41
宅 有 地	民 有 地	田 畑	2,308.00	1.48	109,976.75	70.59
		宅 地	—	—		
		公 衆 用 道 路	128,849.28	82.70		
		雑 種 地	581.32	0.37		
	計	1,183.00	0.76			
	計	132,921.60	85.31			
公 有 地	国 県 市	有 地	436.35	0.28		
		有 地	—	—		
		有 地	6,022.12	3.87		
計		6,458.47	4.15			
合 計			139,380.07	89.46	109,976.75	70.59
保 留 地			—	—	—	—
測 量 増 減			60.47	0.04	—	—
総 計			155,800.62	100.00	155,800.62	100.00

⑥ 郡山中央土地区画整理事業

本地区は、道路、公園等の公共施設が未整備のまま宅地化が進み、居住環境と都市機能が阻害されている状況にある。

このため、都市計画道路松尾城線（17m）ほか4路線を含めた公共施設の整備改善を図るとともに、居住環境の良好な住宅地としての機能を十分発揮できるような土地利用を図るため、土地区画整理事業を行っている。

また、土地区画整理事業と併行して、地区内を流れる二級河川甲突川及び油須木川の河川改修を行い、水害等の災害に強いまちづくりを行うこととしている。

平成7年4月3日に区域について都市計画決定を行い、平成8年3月29日に事業計画を決定した。平成20年6月30日には、第4回目の事業計画の変更を行った。

総事業費 14,584,000千円

内 訳	国庫補助金	3,138,550千円	総面積	462,459㎡
	市町村負担金	2,684,450千円	事業年度	
	公共施設管理者負担金	2,727,768千円	平成7年度～平成26年度	
	市単独費	3,990,232千円		
	地方特定道路	1,145,000千円		
	保留地処分金	898,000千円		

土地の種目別対照表 (平成20年6月30日事業計画変更)

種 目				施 行 前		施 行 後	
				地 積 (㎡)	割合 (%)	地 積 (㎡)	割合 (%)
公 共 用 地	国 有 地	道 路	26,799.18	5.80	22,426.87	4.85	
		河 水	23,734.11	5.13	34,708.35	7.51	
		計	6,765.40	1.46	264.98	0.06	
	地 方 所 有 地 共 同 体	道 路	57,298.69	12.39	57,400.20	12.42	
		公 園	22,541.06	4.87	86,860.23	18.78	
		河 川	-	-	22,310.34	4.83	
計		-	-	-	-		
合 計		22,541.06	4.87	109,170.57	23.61		
合 計				79,839.75	17.26	166,570.77	36.03
宅 地	民 有 地	田 畑	148,387.41	32.09	277,188.47	59.93	
		地 道	15,222.00	3.29			
		公 衆 用 道	117,734.99	25.46			
		雑 種 地	1,010.44	0.22			
		計	29,476.21	6.37			
	公 有 地	国 有 地	311,831.05	67.43			
		県 有 地	1,987.99	0.43			
		市 有 地	656.90	0.14			
		計	68,143.55	14.74			
		合 計	70,788.44	15.31			
合 計		382,619.49	82.74				
保 留 地		-	-	18,700.00	4.04		
測 量 増 減		-	-	-	-		
総 計		462,459.24	100.00	462,459.24	100.00		

⑦ 谷山駅周辺地区土地区画整理事業

本地区は、旧谷山市域において中心的な役割を担ってきた地区であり、鹿児島市の副都心核となる地区である。しかしながら、周辺新市街地が発展する反面、本地区では道路、駅前広場等のインフラが未整備であり、国道225号沿いや市道春日線沿いにおける活力が低下している状況である。

本事業は、JR指宿枕崎線の鉄道高架化事業と併せて幹線道路、駅前広場、公園の整備と密集住宅地における生活環境の改善等の一体的なまちづくりを行い、副都心核として魅力ある都市空間の形成や都市機能の集積を図ることを目的とする。

平成18年7月7日に区域について都市計画決定を行い、平成20年3月21日に事業計画を決定した。

総事業費 24,373,000千円

内 訳	国庫補助金	7,898,500千円	総面積	153,413㎡
	市町村負担金	7,898,500千円	事業年度	
	地方特定道路	505,000千円	平成19年度～平成31年度	
	市単独費	8,069,200千円		
	鉄道負担金	1,800千円		

土地の種目別対照表

(平成20年3月21日事業計画決定)

種 目		施 行 前		施 行 後		
		地 積 (㎡)	割合 (%)	地 積 (㎡)	割合 (%)	
公 共 用 地	国 有 地	道 路	2,168.25	1.41	6,893.14	4.49
		河 水	1,383.32	0.90	2,553.39	1.66
		川 路	367.50	0.24	56.53	0.04
		計	3,919.07	2.55	9,503.06	6.19
	地 方 公 共 団 体 所 有 地	道 路	15,848.79	10.33	50,579.57	32.97
		公 園	-	-	4,670.18	3.04
		河 水	1,497.60	0.98	-	-
		川 路	400.72	0.26	-	-
		計	17,747.11	11.57	55,249.75	36.01
		合 計	21,666.18	14.12	64,752.81	42.20
宅 地	民 有 地	田 畑	1,448.91	0.95	88,660.24	57.80
		地 林	7,519.82	4.90		
		野 道	98,846.45	64.43		
		路 地	184.00	0.12		
		衆 用 種 道	-	-		
		雜 種 用 地	865.49	0.57		
		鉄 道 用 地	357.77	0.23		
	計	12,659.79	8.25			
	公 有 地	市 有 地	121,882.23	79.45		
		県 有 地	1,873.30	1.22		
開 発 公 社		2,860.00	1.86			
合 計	3,002.88	1.96				
保 留 地	7,736.18	5.04				
測 量 増 減	129,618.41	84.49	88,660.24	57.80		
総 計	-	-	-	-		
	2,128.46	1.39	-	-		
	153,413.05	100.00	153,413.05	100.00		



⑧ 谷山第三地区土地区画整理事業

本地区は、道路、公園等の公共施設が未整備のまま市街化が進み、居住環境の悪化や救急活動及び防災面の問題、また、県道小山田谷山線の朝夕の交通渋滞、歩行者の安全確保等多くの課題が生じている。

このため、惣福御所下線や向川原惣福線等の都市計画道路や区画道路、公園、水路等の公共施設を整備し、居住環境の良好な住宅地としての土地利用を図るため土地区画整理事業を行う。

平成20年9月26日に区域について都市計画決定を行い、平成23年10月14日に事業計画を決定した。

総事業費 24,800,000千円

内訳	}	国庫補助金	9,738,500千円	総面積	348,818㎡
		市町村負担金	9,738,500千円	事業年度	
		保留地処分金	415,500千円	平成23年度～平成39年度	
		地方特定道路	1,312,000千円		
		市単独費	3,595,500千円		

土地の種目別対照表 (平成23年10月14日事業計画決定)

種目				施行前		施行後		
				地積 (㎡)	割合 (%)	地積 (㎡)	割合 (%)	
公用地	国有地	道河公	路川園	6,488.72	1.86	6,488.72	1.86	
		計		6,488.72	1.86	6,488.72	1.86	
	地方公共団体所有地	道公緑水	路園地路	31,864.87	9.14	85,743.10	24.58	
				172.00	0.05	10,465.30	3.00	
		計		4,097.23	1.17	6,570.36	1.88	
合 計		36,134.10	10.36	102,778.76	29.46			
合 計				42,622.82	12.22	109,267.48	31.32	
宅地	民有地	宅山原雑公基	田畑	11,785.84	3.38	235,800.84	67.60	
			地	35,789.11	10.26			
			林地	228,692.59	65.56			
			野	91.00	0.03			
			地	384.00	0.11			
			種用道路	10,429.83	2.99			
	公有地	市県国	有地地地	衆	4,593.04			1.32
				用地	404.00			0.12
				計	292,169.41			83.77
				市有地	279.00			0.08
県有地	248.80	0.07						
国有地	2,638.00	0.75						
計	3,165.80	0.90						
合 計				295,335.21	84.67	235,800.84	67.60	
保留地						3,750.00	1.08	
測量増減				10,860.29	3.11	-	-	
総 計				348,818.32	100.00	348,818.32	100.00	

### 13 清算（特別会計）

清算事務は、土地区画整理事業における換地と、従前の土地の評価額を各権利者別にそれぞれ算出して得られる換地相互間の格差を金銭により清算して事業の収束を図るものである。本市の旧市街地全域に及んだ復興土地区画整理事業も収束をみる事ができたが、清算については、昭和33年度に清算特別会計を設定し、事務に着手した。その後、同特別会計に脇田、紫原、谷山塩屋、笹貫、小松原、武・田上、桜川、桜川第二、谷山第一、原良第一を加え、清算事務を行っている。

○ 徴収・交付実績

清算事務計画面積 1,655.04 (ha)

清算事務実施面積 1,655.04 (ha)

(単位：千円，%)

地区	面積 (ha)	平成23年度までの徴収金			平成24 年度徴 収見込	平成23年度までの交付金		
		総額	実績	徴収率 (%)		総額	実績	交付率 (%)
復興地区	1,043.86	1,329,710	1,329,710	100.0		1,236,120	1,236,120	100.0
脇田	50.51	45,386	45,386	100.0		40,579	40,579	100.0
紫原	145.66	59,521	59,521	100.0		57,921	57,921	100.0
谷山塩屋	19.38	15,084	15,084	100.0		55,892	55,892	100.0
笹貫	28.14	24,439	24,439	100.0		87,290	87,290	100.0
武・田上	63.74	132,110	132,110	100.0		130,121	130,121	100.0
小松原	42.53	47,707	47,707	100.0		47,519	47,519	100.0
桜川	63.82	65,962	65,962	100.0		65,689	65,689	100.0
桜川第二	32.73	8,526	8,526	100.0		8,525	8,525	100.0
谷山第一	127.80	85,633	85,633	100.0		85,622	85,622	100.0
原良第一	36.87	121,306	121,306	100.0		121,114	121,114	100.0
計	1,655.04	1,935,384	1,935,384	100.0		1,936,392	1,936,392	100.0

### 14 連続立体交差事業

#### (1) 谷山地区連続立体交差事業

谷山地区では、地区内を南北に走る J R 指宿枕崎線により市街地が分断されており、地域の一体的なまちづくりが困難な状況にある。特に、東西を結ぶ幹線道路など交通ネットワークを形成する上で、鉄道との平面交差が大きな障害となっており、踏切による事故や交通渋滞など、都市活動やバランスのとれた都市の発展が阻害されている。

そこで、谷山地区のまちづくりと併せ、J R 指宿枕崎線の谷山駅付近から慈眼寺駅付近までの約2.7kmの区間を連続して高架化することにより、当区間の踏切を除去し、東西の地域分断の解消と都市生活の安全性・快適性の向上など、都市環境の改善を図ることとしている。

鹿児島県知事により、平成18年7月7日に都市計画の決定、平成19年12月25日に都

市計画事業の認可がなされた。また、平成20年10月4日には起工式を開催し、平成22年3月6日に仮線一次切替を行った。

- ・都市計画事業の種類 鹿兒島都市計画 都市高速鉄道事業
- ・都市計画事業の名称 1号 九州旅客鉄道株式会社 指宿枕崎線
- ・事業区間 工事区間：3,140m, 高架化区間：2,725m
- ・事業認可期間 平成19年12月25日～平成29年3月31日
- ・総事業費 概算14,949,000千円
- ・除却踏切 15箇所（諏訪・試験場・伊作街道踏切など）
- ・幹線道路 5路線（御所下和田名線, 惣福森山線など）
- ・施工方式 仮線方式（永田川橋梁部は別線方式）

## 15 建築確認事務

### (1) 経緯

昭和25年5月に制定された建築基準法は、その後の社会情勢の変化、建築技術の進歩等により実情にそぐわない点が生じてきたことなどから、昭和45年6月に同法の一部が改正された。これを受け、本市でも昭和46年3月25日付けで建築指導課を設置し、特定行政庁として、それまで県が行っていた建築確認事務等を行うこととなった。

その後、平成10年6月12日の同法の一部改正（平成11年5月1日施行）により、それまで特定行政庁の建築主事が行ってきた確認・検査業務が、新たに国土交通大臣又は都道府県知事が指定した民間機関（指定確認検査機関）でも行えるようになった。

平成18年6月21日の同法の一部改正（平成19年6月20日施行）では、一定規模以上の建築物について都道府県知事又は都道府県知事が指定する構造計算適合性判定機関による構造計算審査や、3階建て以上の共同住宅についての中間検査が義務付けられることとなった。

なお、本市では同法で定められているもの以外に、不特定多数の者が利用する施設の安全を確保するため、3階建て以上でかつ延べ面積が500㎡を超える劇場・病院・福祉施設・学校等についても、条例により中間検査の対象としている。

### (2) 実績

#### ① 建築許可確認申請等

区分	19	20	21	22	23
許可等申請 （うち仮使用承認申請）	件 136 (24)	件 101 (20)	件 139 (18)	件 130 (4)	件 119 (14)
建築物等確認申請 （うち計画通知）	1,586 (98)	1,469 (84)	1,399 (129)	1,277 (129)	1,343 (91)
住宅金融支援機構設計審査等申請※	0	0	0	0	0
合計	1,722	1,570	1,538	1,407	1,462

※旧住宅金融公庫の業務は、平成19年4月1日に独立行政法人住宅金融支援機構に継承されている。

② 違反建築物取扱件数及び是正件数

建築パトロールにより違反工事の早期発見に努め、現場指導を実施するとともに、違反建築物防止週間に、市民へのPRを行っている。建築工事に対する一般市民の関心は高く、相談、通報等による現場調査が多くなっている。

(平成23年度)

違反の内容	件数	処分又は是正完了	未完了
建築基準法第6条違反(確認申請手続)	18	18	0
建築基準法第27条違反(防火構造・耐火構造等)	1	1	0
建築基準法第20条違反(構造耐力上の規定)	0	0	0
建築基準法第48条違反(用途地域内の建築制限)	0	0	0
建築基準法第52条違反(容積率制限)	2	2	0
建築基準法第85条違反(仮設許可) 第5項違反	0	0	0
建築基準法第89条違反(確認表示板未掲示)	8	8	0
合計	29	29	0

16 住 宅

本市の住宅状況は、平成20年10月1日現在の住宅土地統計調査によると次のとおりである。住宅総数が世帯数を上回っており、戸数面では充足している。

住宅数 (単位：戸)

総数	居住世帯あり	居住世帯なし			
		空き家	建築中	一時現在者のみ	計
305,850	262,720	41,540	360	1,220	43,120

※標本調査による推計値であるため、表中の個々の数値の合計が必ずしも総数とは一致しない。

(1) 市営住宅等

市営住宅は、市民生活の安定と社会福祉の増進に寄与するために、低額所得者に対して賃貸する住宅である。

本市では、良質な住宅ストックの形成を図るため、耐用年数や居住水準を考慮しながら昭和57年度から建替を進めている。

また、平成15年度から既存の市営住宅の有効活用を図るため、全面的改善や個別改善を行う市営住宅ストック総合改善事業に取り組んでいる。

これら市営住宅の整備にあたっては、バリアフリー対策の充実を進めることを基本とし、世帯構成を考慮した住宅の供給など、少子高齢社会を踏まえた対応を図っている。

また平成9年度からは、市街化調整区域の指定既存集落の活力を保持するため、既存集落活性化住宅建設事業に、さらに、平成20年度からは、旧5町域の活性化や定住促進を図るため、地域活性化住宅の建設に取り組んでいる。これらの住宅について

は、地域内の小学校の児童数確保のため、主に若い世帯を入居対象としているが、入居後相当年数が経過すると、入居者に児童がいなくなり、事業の実効性が確保できなくなることから、平成22年度からは定期借家制度(期限付入居)を導入している。

さらに、優良な民間賃貸住宅に対して一定の範囲で助成し、公的住宅として活用する優良賃貸住宅供給促進事業を推進している。

① 戸数(平成24.4.1現在) (単位:戸)

住宅種別	平成23年度完成戸数		平成24年度建設計画戸数				平成24年度 未予定 管理戸数
	用途 廃止 減失	平成23年度 完成	用途 廃止 減失	平成23年度 着工 (複数年)	平成24年度 着工 (単年)	平成24年度 着工 (複数年)	
公営	84	74	60	30	5	74	10,694
特公賃	0	0	0	0	0	0	24
改良	64	42	50	0	0	0	177
更新	0	0	0	24	0	0	158
その他	0	0	0	0	0	0	6
計	148	116	110	54	5	74	11,059

(注) 公営住宅…公営住宅法に基づき供給する住宅  
 特定公共賃貸住宅…特定優良賃貸住宅の供給の促進に関する法律に基づき市が直接供給する住宅  
 改良住宅…住宅地区改良法に基づき供給する住宅  
 更新住宅…改良住宅等改善事業制度要綱に基づき供給する住宅  
 その他住宅…公営住宅、特定公共賃貸住宅、改良住宅及び更新住宅以外の住宅  
 入居収入基準及び住宅使用料 (平成24.4.1現在)

公営住宅	諸控除後月収 158,001円以下 ※裁量階層は、214,000円以下
特公賃住宅	諸控除後月収 158,001円以上487,000円以下 (ただし、50歳未満の場合は104,001円以上)
改良住宅	諸控除後月収 114,000円以下 ※裁量階層は、139,000円以下

住宅使用料は毎年度、入居者の収入に基づき、近傍同種の住宅の家賃以下で算出する。  

$$= \text{家賃算定基礎額} \times \text{市町村立地係数} \times \text{規模係数} \times \text{経過年数係数} \times \text{利便性係数}$$
 (収入により異なる。)(各住戸で異なる。)  
 ※裁量階層：入居者が身体障害者である場合その他の公営住宅法施行令で定める者

② 建設実績・計画(平成24.4.1現在) (単位:千円)

区分	平成23年度戸数				平成24年度計画	
	戸数	事業費	交付金	市費	戸数	事業費
公営	[64] 40	1,026,406	419,411	606,995	[40] 79	1,012,865
更新	[42] 24	462,853	297,777	165,076	[24] 0	324,099
計	[106] 64	1,489,259	717,188	772,071	[64] 79	1,336,964

[ ] 内は22年度の着工分  
 下段は23年度の着工分

[ ] 内は23年度の着工分  
 下段は24年度の着工分

③ ストック総合改善実績・計画 (平成24. 4. 1 現在)					(単位：千円)		
区分	平成23年度戸数				平成24年度計画		
	戸数	事業費	交付金	市費	戸数	事業費	
公営	90	688,643	279,235	409,408	90	788,067	
22年度の着工分				24年度の着工分			
④ 構造別現況					(平成24. 4. 1 現在)		
種別	戸数	構造別 (戸)					
		木造	簡平	簡二	低耐	中耐	高耐
公営住宅	10,714	231	28	16	96	9,173	1,170
特公賃住宅	24	9	0	0	0	15	0
改良住宅	227	0	0	0	0	177	50
更新住宅	134	0	0	0	0	7	127
その他住宅	6	6	0	0	0	0	0
計	11,105	246	28	16	96	9,372	1,347
(2) 市域内の住宅・団地等							
① 住宅(公的住宅)					(平成24. 4. 1 現在)		
所管区分	賃貸戸数	分譲戸数	主な団地数	事業開始			
市営住宅	11,105	0	74	昭和21年度			
市住宅公社	24	1,746	21	26 ♪			
県営住宅	4,866	0	21	27 ♪			
県住宅供給公社	122	3,646	25	38 ♪			
合計	16,117	5,392	141				
② 宅地開発					(平成24. 4. 1 現在 5 ha以上の団地)		
事業区分	団地数	団地面積 (ha)	計画戸数 (戸)				
公営	市	2	33.08	643			
	開発事業団	8	494.71	14,458			
	市住宅公社	4	274.50	11,324			
	県住宅供給公社	4	199.26	5,413			
	小計	18	1,001.55	31,838			
民間事業者	32	734.85	21,432				
組合施行区画整理事業	12	537.57	10,363				
合計	62	2,273.97	63,633				
17 建築物の維持保全							
(1) 公共建築物ストックマネジメント事業							
・事業目的							
公共施設の老朽化が進むなか、既存の建築物を長期にわたって良好な状態で活用していくことが重要な課題となってきたことから、既存の公共建築物について中長期的な視点に立った保全計画を作成し、計画的で効率的な維持保全を行うものである。							

・事業内容

既存公共建築物の劣化状況調査を行い、施設毎の保全計画の作成を行う。また、施設情報の一元化や施設管理者等への支援・助言を行う。

平成24年度は、保全計画の見直し・作成、建築物の日常点検の推進（日常点検強化月間の実施）及び保全ニュースの配信などを行う。また、CO<sub>2</sub>排出削減等の環境対策との連携を図るとともに、建設資材等のリユースに取り組む。

・予算額 平成24年度 10,159千円

## 18 建築物の環境対策

### (1) 公共建築物環境対策調査研究事業

・事業目的

公共建築物におけるCO<sub>2</sub>排出削減等の環境対策について、鹿児島大学と共同で調査・研究を行い、CO<sub>2</sub>排出削減の手法や効果的な運用方法をまとめ、今後の公共建築物の新築及び既存改修等に応用する。

・事業内容

鹿児島大学と共同で調査・研究を進めるほか、産学官連携による「公共建築物の低炭素化を目指す鹿児島プロジェクト」に取り組み、民間企業等から技術提案を公募し、学校等で検証を行う。また、これまでの検証結果を総合的に評価した後、環境対策技術導入設計指針を作成し、具体的な環境対策に活かしていく。

平成24年度事業計画

① 公共建築物における環境対策の調査研究

ア 環境対策の効果の検証

イ 既存公共建築物のエネルギー消費量の解析等

② 産学官連携「公共建築物の低炭素化を目指す鹿児島プロジェクト」

ア 環境対策技術導入設計指針の作成

③ 効果的な運用

既存公共建築物において、設備機器の効果的な運用のための助言を行い、運用支援を行う。

・予算額 平成24年度 2,948千円

## 19 土 木

### (1) 市域内道路現況（平成24.4.1現在）

種 目	実延長 (km)	面 積 (㎡)	舗 装		未舗装延長 (km)	
			延 長 (km)	延長舗装率 (%)		
国 道	101.87	2,149,502	101.87	100.00	0	
県 道	285.60	5,407,972	285.60	100.00	0	
内 訳	主要地方道	186.05	3,584,589	186.05	100.00	0
	一般地方道	99.55	1,823,383	99.55	100.00	0
市 道	2,611.39	20,404,358	2,277.57	87.22	333.82	
計	2,998.86	27,961,832	2,665.04	88.87	333.82	

## (2) 市 道

## ① 幅員別状況

(平成24. 4. 1 現在 単位：km)

実延長	規 格 改 良 済					未 改 良			
	車道19.5m以上	車道13.0m以上	車道5.5m以上	車道4.0m以上	車道4.0m未満	車道5.5m以上	車道4.5m以上	車道3.5m以上	車道3.5m未満
2,611.39	9.68	39.78	719.39	906.82	410.53	11.30	14.24	75.23	424.42

## ② 舗装種類別状況

(平成24. 4. 1 現在 単位：km, %)

実延長	セメント系舗装	アスファルト系舗装		延長舗装率	簡易二種(防塵)	砂利道
		高級	簡易(一種)			
2,611.39	91.94	110.67	2,074.96	87.22	292.05	41.77

(注) ア 市道簡易舗装二種(防塵舗装)を含め延長舗装率 98.4%

イ 市道路線総数 8,149

(市街地区 2,407 吉野地区 607 伊敷地区 802 田上地区 859  
東桜島地区 86 谷山地区 2,144 吉田地区 212 桜島地区 254  
喜入地区 377 郡山地区 148 松元地区 253)

## ③ 市道認定のための路線の条件

市道に認定する路線は、法令に定めがあるものを除き、次に掲げる要件のいずれかに該当するものとする。

ア 交通上重要な道路

イ 国道、県道又は市道のいずれかに連絡する道路

ウ 国道又は県道の路線変更等により本市に引き継がれる道路

エ 都市計画法(昭和43年法律第100号)、土地区画整理法(昭和29年法律第119号)、都市再開発法(昭和44年法律第38号)、新住宅市街地開発法(昭和38年法律第134号)等の法令の規定に基づき設置された道路で、法令の規定により本市に帰属されるもの

オ 国有財産で道路用地として無償貸付けを受ける道路

カ 一般の通行に供している道路で、無償で取得できるもの

キ 小学校区ごとに設置されたスクールゾーン委員会が指定する通学通園路又は公共施設に連絡する道路

なお、市道認定路線の構造条件等、市道路線認定の申請手続等については別に定めている。



(3) 道路側溝の改良状況

(各年4.1現在 単位:m)

区分 \ 年度	19	20	21	22	23
市街地区	4,639	2,467	1,844	1,189	3,493
吉野桜島地区	2,553	1,843	2,357	1,849	653
伊敷地区	5,972	4,094	7,943	5,141	2,672
田上宇宿地区	2,773	1,405	1,496	1,048	2,235
吉田地区	988	1,898	1,581	1,557	1,954
桜島地区	529	392	374	440	1,741
松元地区	2,044	2,206	2,270	1,847	1,472
郡山地区	2,402	2,411	2,313	1,529	1,946
谷山地区	7,780	5,421	5,041	4,478	5,342
喜入地区	2,369	1,721	1,649	1,200	994
施工延長	32,049	23,858	26,868	20,278	22,502

(4) 道路新設改良状況

(各年4.1現在 単位:m)

区分 \ 年度	19	20	21	22	23
市街地区	1,845	2,080	2,116	3,202	1,259
吉野桜島地区	1,061	703	1,238	481	285
伊敷地区	1,710	1,453	1,727	1,942	1,139
田上宇宿地区	1,185	843	631	516	1,379
吉田地区	1,200	1,440	1,679	931	1,676
桜島地区	0	0	0	0	0
松元地区	829	566	587	581	527
郡山地区	460	631	722	645	823
谷山地区	3,534	2,540	3,308	3,874	2,991
喜入地区	2,265	2,873	1,151	980	301
施工延長	14,089	13,129	13,159	13,152	10,380

(5) 排水路(河川水路)新設改良状況(市管理河川水路)

(各年4.1現在 単位:m)

地区名 \ 年度	19	20	21	22	23
市街地区	841	994	1,411	1,485	958
吉野桜島地区	286	352	487	291	135
伊敷地区	0	82	430	0	0
田上宇宿地区	307	77	72	143	61
谷山地区	613	793	1,132	1,281	393
合計	2,047	2,298	3,532	3,200	1,547

## (6) 橋梁現況

(平成24. 4. 1 現在 単位：m)

地区別	永 久 橋		木 橋		計	
	橋数	延 長	橋数	延 長	橋数	延 長
市 街 地 区	129	3,450.0	0	0	129	3,450.0
吉 野 地 区	26	287.6	0	0	26	287.6
東 桜 島 地 区	6	93.4	0	0	6	93.4
伊 敷 地 区	80	1,205.8	0	0	80	1,205.8
田 上 地 区	40	796.2	0	0	40	796.2
吉 田 地 区	64	665.8	0	0	64	665.8
桜 島 地 区	29	337.2	0	0	29	337.2
松 元 地 区	35	830.2	0	0	35	830.2
郡 山 地 区	49	622.0	0	0	49	622.0
谷 山 地 区	123	2,373.2	0	0	123	2,373.2
喜 入 地 区	93	637.9	0	0	93	637.9
合 計	674	11,299.3	0	0	674	11,299.3

## (7) 国・県施行土木事業の負担金

(平成23年度)

事業区分	事業名	負 担 割 合			市負担金 (千円)
		国	県	市	
港湾関係	国直轄港湾改修事業	6.545/10	2.59125/10	0.86375/10	322,939
	県施行重要港湾改修事業	5.95/10	2.43/10	1.62/10	26,976
		4.76/10	3.144/10	2.096/10	37,396
	県施行港湾環境整備事業 (鹿児島港フロンティアランド)	3.57/10	3.858/10	2.572/10	8,346
	県施行港湾施設改良費統合補助事業 (改良)	1/3	1.2/3	0.8/3	9,318
	県施行海岸津波・高潮統合補助事業	1.19/2	0.70632/2	0.10368/2	2,643
海岸保全施設整備事業(老朽化対策事業)	1.19/2	0.648/2	0.162/2	5,946	
急傾斜地砂防関係	急傾斜地崩壊対策事業(公共大規模)	4.75/10	4.75/10	0.5/10	280
	〃(公共その他)	4.5/10	4.5/10	1/10	0
	〃(一般大規模)	4.5/10	4.5/10	1/10	28,300
	〃(一般その他)	4/10	5/10	1/10	0
	〃(〃)	4/10	4/10	2/10	23,368
道路関係	県単砂防事業	-	9/10	1/10	924
	県単道路整備事業(防塵舗装)	-	9/10	1/10	0
	〃(改良)	-	9/10	1/10	0
	県施行地方特定道路整備事業(改良)	-	9.5/10	0.5/10	16,888
	県施行街路事業(社会資本整備総合交付金)	7/10	2/10	1/10	25,000
	〃(県単道路整備事業(交付金))	6.5/10	2.5/10	1/10	0
〃(地方特定道路整備事業)	-	9.5/10	0.5/10	2,000	
〃(ふれあいとゆとりの道づくり事業)	-	9/10	1/10	0	

(8) 広木駅自動車駐車場

収容台数 39台 (うち障害者等 2台)

平成21年3月14日、JR広木駅前に道路の付属物として設置した自動車駐車場の供用を開始し、併せて駐車料金の徴収に関する条例を制定した。

利用時間 全日

駐車料金 6時間ごとに100円 (駐車開始から30分までは無料)

平成23年度使用料収入 25,704台 (うち有料駐車17,166台) 3,628,000円

平成24年度予算額歳入 3,427,200円

(9) 路面・水路・側溝・宅地内降灰等の清掃作業状況 (平成23年度実績)

区分	作業量	作業区分等				浚せつ土量	搬出土量
		市単独事業	補助事業	市直営工事等			
路面	機械 km	30,888	12,167	18,721	0	-	4,484 <sup>m<sup>3</sup></sup>
	人力 m <sup>3</sup>	112,270	0	112,270	0	-	49 <sup>m<sup>3</sup></sup>
側溝	km	94	14	62	18	2,727 <sup>m<sup>3</sup></sup>	-
公共下水道	km	0	0	-	-	0 <sup>m<sup>3</sup></sup>	-
宅地内降灰	か所	6,176	6,176	-	-	-	8,009 <sup>m<sup>3</sup></sup>

(10) 屋外広告物許可申請件数

	平成23年度
屋外広告物許可申請(新規)	237件
〃 (更新)	354件
〃 (変更)	134件
〃 (はり紙)	719件
合計	1,444件

(11) 屋外広告物施設設置状況 (平成24.4.1現在)

公共掲示板	116基
はり紙専用広告塔	26基

(12) 自転車等駐車場対策推進事業

平成8年3月に、自転車等の駐車対策に関する条例を制定し、同年10月から歩道や車道、駅前広場等の公共の場所に放置してある自転車や原動機付自転車の撤去を行っている。

鹿児島中央駅周辺においては、平成8年に自転車等駐車場を整備するとともに、駅周辺を自転車等放置禁止区域に指定している。

天文館を中心とする中央地区においては、平成14年から年次的に7か所の自転車等駐車場の設置を行い、合わせてその周辺を放置禁止区域に指定している。

撤去した自転車等は、撤去し保管した旨を公示するとともに、所有者を調査し、返還に努めている。なお、返還する際には撤去保管料を徴収している。

公示の日から6カ月を経過し、所有権が本市に帰属することとなった自転車等については、リサイクル自転車フェアに出品し、物を大切にすることを意識の高揚や資源の有効活用を図っている。

① 市営自転車等駐車場

ア 有料市営自転車等駐車場

名 称	位 置	利用方法	利用時間
市営鹿兒島中央駅東口自転車等駐車場	中央町39番1	一時利用・定期利用	午前6時～午後12時
市営鹿兒島中央駅西口自転車等駐車場	武一丁目7番3		
市営黒田踏切自転車等駐車場	西田一丁目1番33	定期利用	全日
市営東千石自転車等駐車場	東千石町3番44	一時利用・定期利用	
市営山之口自転車等駐車場	山之口町11番2		
市営二本松自転車等駐車場	山之口町3番29		
市営西千石自転車等駐車場	西千石町16番11		
市営中町自転車等駐車場	中町4番10		
市営おつきや自転車等駐車場	東千石町17番17	一時利用	
市営松山通自転車等駐車場	呉服町2番6		

イ 無料市営自転車等駐車場

名 称	位 置
市営南鹿兒島駅自転車等駐車場	南郡元町33番20
市営谷山電停自転車等駐車場	東谷山二丁目766番2
市営谷山駅自転車等駐車場	谷山中央一丁目4087番6
市営慈眼寺駅自転車等駐車場	慈眼寺町1283番3
市営坂之上駅自転車等駐車場	坂之上四丁目4719番2
市営喜入駅自転車等駐車場	喜入町7070番40
市営生見駅自転車等駐車場	喜入生見町2739番12
市営薩摩松元駅自転車等駐車場	上谷口町1049番1
市営上伊集院駅自転車等駐車場	上谷口町1655番12
市営宇宿駅自転車等駐車場	宇宿三丁目12番8
市営広木駅自転車等駐車場	田上町4792番2

② 駐車料金等

ア 駐車料金

利用の種類	利用時間	駐 車 料 金		
		自 転 車	原動機付自転車 大型自動二輪車 普通自動二輪車	
一時利用	24時間(1回)	100円	150円	
定期利用	学 生	1月	1,200円	1,800円
		3月	3,240円	4,860円
	一 般	1月	1,500円	2,250円
		3月	4,050円	6,070円

③ 撤去した自転車等の返還について

ア 放置禁止区域内で撤去され、約1カ月以内の自転車等

(a) 返還場所 鹿児島市自転車等一時保管所

鹿児島市南林寺町30番3 電話226-0632

(b) 返還日時 年末年始(12月29日～1月3日)を除く毎日

午後1時～午後7時

イ ア以外の自転車等

(a) 返還場所 鹿児島市自転車等保管所

鹿児島市田上八丁目28番5号 電話 282-7488

(b) 返還日時 年末年始(12月29日～1月3日)を除く毎日

午後1時～午後6時

ウ 撤去保管料 ア, イいずれも 自転車 1,500円 原動機付自転車 2,000円

④ 平成23年度自転車等の撤去・返還等及び自転車等駐車場の附置義務届出状況

(単位:台)

撤 去				本 人 返 還						
放置禁止区域内		自転車等駐車場内		放置禁止区域外		自転車	原動機付自転車	左のうち盗難届分		
自転車	原動機付自転車	自転車	原動機付自転車	自転車	原動機付自転車			自転車	原動機付自転車	
2,479	21	557	15	1,693	47	1,602	25	106	1	
リ サ イ ク ル					保 管					附 置 義 務
市民への売却	バイク販売商への売却	公用車等として活用	大学へ譲与(留学生)	鉄くずとして処分	6カ月保管中の台数	帰属後の保管台数				
自転車	原動機付自転車	自転車	自転車	自転車	原動機付自転車	自転車	原動機付自転車	自転車	原動機付自転車	届出完了
479	25	3	10	2,690	12	1,414	33	1,085	0	2 0

## 20 高速道路

道路名	区画	延長	備考
(1) 九州縦貫自動車道鹿兒島線	北九州市～鹿兒島市 〔県内〕約67km	約345km	・平成7年7月27日全線開通 ・平成16年12月11日全線4車線化 (一部6車線)
(2) 南九州西回り自動車道  〔一般国道の自動車専用道路として整備〕	八代市～鹿兒島市 〔県内〕 (1) 鹿兒島道路(鹿兒島IC～市来IC) ① 鹿兒島IC～鹿兒島西IC ② 鹿兒島西IC～伊集院IC ③ 伊集院IC～市来IC (2) 川内道路(市来IC～薩摩川内都IC) ① 市来IC～串木野IC ② 串木野IC～薩摩川内都IC (3) 川内隈之城道路(薩摩川内市域) (4) 薩摩川内市～阿久根市 (5) 出水阿久根道路(阿久根市～出水市) (6) 芦北出水道路(出水市～熊本県芦北IC)※うち(熊本県水俣IC～熊本県芦北IC)(13.3km)は平成9年2月整備計画決定	約140km  22.2km (0.9km) (10.2km) (11.1km) 13.8km (7.3km) (6.5km) 10.2km 21.0km 14.9km 29.6km	・平成2年11月整備計画決定 ・昭和63年10月19日開通 ・平成10年3月26日開通 ・平成14年4月6日開通 ・平成3年12月整備計画決定 ・平成17年3月13日開通 ・平成19年3月3日開通 ・平成5年7月基本計画決定 ・平成9年2月基本計画決定 ・平成5年7月基本計画決定 ・平成3年12月基本計画決定
(3) 東九州自動車道	北九州市～大分市～宮崎市～鹿兒島市 〔県内〕 (1) 鹿兒島IC～加治木JCT (2) 加治木JCT～隼人東IC(隼人道路) (3) 隼人東IC～国分IC (4) 国分IC～末吉財部IC (5) 末吉財部IC～曾於弥五郎IC (6) 末吉財部IC～志布志IC (7) 志布志IC～串間市	約436km  28.6km 7.3km 4.8km 22.5km 11.1km 48.0km 19.0km	・九州縦貫自動車道と重複 ・平成4年3月25日開通 ・平成12年3月4日開通 ・平成14年3月2日開通 ・平成22年3月14日開通 ・平成16年1月整備計画変更決定 ・平成3年12月基本計画決定

## 21 地籍調査

### (1) 概要及び効果

地籍調査は、国土調査法に基づき、毎筆の土地について、その所有者、地番及び地目の調査並びに境界及び地積に関する測量を行い、その結果を地図及び簿冊に作成するものである。

その効果としては、土地境界を巡るトラブルの未然防止、登記手続きの簡素化・費用縮減、土地の有効利用の促進、公共事業の効率化・コスト縮減、公共物管理の適正化、災害復旧の迅速化、課税の適正化・公平化等が挙げられる。

### (2) 本市の進捗状況(平成24.4.1現在)

	調査対象面積	調査済面積 (他事業整備含む)	進捗率
鹿兒島市	512.11km <sup>2</sup>	241.93km <sup>2</sup>	47.2%

※ 国有林野、湖沼等は調査対象面積に含まれない。  
 ※ 他事業整備とは、国土調査法第19条第5項による指定(予定を含む。)及び法務局の登記所備付地図作成等によるものである。

〈× 毛〉